

氏 名	雪合来提馬合木提 シヨホラット マヘムト
学位(専攻分野)	博 士 (経 済 学)
学 位 記 番 号	経 博 第 267 号
学位授与の日付	平 成 18 年 7 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	経 済 学 研 究 科 経 済 シ ス テ ム 分 析 専 攻
学位論文題目	上海シックス+中国新疆自治区連結国際計量経済モデルの構造とシミュレーション
論文調査委員	(主 査) 教 授 大 西 広 教 授 森 棟 公 夫 教 授 塚 谷 恒 雄

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、「上海協力機構（SCO）」加盟六カ国と中国新疆自治区を対象とし、国際貿易によってリンクされる7国・地域間国際連結モデルを構築し、政策シミュレーションを行うものであり、①中国がいかに関係を通じて影響力を西の方へと拡大しているか、②中国新疆自治区がいかに関係を通じて中央アジア諸国・諸地域との経済交流を深め、また中国のこうした対外政策においてどのような役割を担うのかを検討することを目的として書かれている。

第一章では、上記のような本稿の目的を達成するために本モデルがもっていない特徴を述べる。その具体的特徴は①グローバルな国際関係の中での中国の求心力の拡大について、②上海協力機構における国際関係の特徴及び中国の上海協力機構における影響力の拡大について、③新疆自治区が中国国内経済関係及び中国・中央アジア諸国間国際関係において果たす役割を表現していることである。

第二章では、モデルを構成する各推計式の正確性及び推計結果そしてシミュレーション結果に対して決定的な要因となるデータについて論じる。モデル作成の基礎となるデータの収集及び推計方法を紹介し、収集された諸データについて分析を行い、諸国・地域別マクロデータ及び諸国間貿易データが持っている特徴を述べる。GDP 及びその構成項目の推移を見ると、中国本土及び中国新疆が1978年の改革開放以来 GDP は急速に成長しているが、平均成長率は、1992年以前は中国新疆の方が高かったもののその後は中国本土の方が高くなっている。GDP 構成項目においては、中国本土と中国新疆とも、民間消費が GDP における構成比を減らし、代わりに民間投資が構成比を拡大している。構成比においては中国新疆の方が中国本土よりも大きく民間消費が減少し、民間投資が拡大している。旧ソ連諸国については一部の特別なケースを除くと、一般的に言えば、1996年以前の経済後退期、1996年からの経済成長への回復、1998年と1999年におけるロシア経済危機の影響による経済後退、2000年からの正常成長軌道への回復の順に GDP は推移している。諸国・自治区における輸出入及び相手国別構成比を見ると、特別な例を除けば、諸国・自治区の全てが輸出入を大きく拡大しており、中国新疆の上海シックス諸国（旧ソ連諸国）に対する輸出入が大幅に拡大し、中国新疆を通じた上海シックス諸国（特に中央アジア諸国）の中国に対する輸出入が大幅に拡大している。

第三章及び第四章においては、作られた国際連結モデルの基本的構造を紹介し、推計結果について分析を行っている。第三章では、諸国・自治区別マクロモデルの基本構造と推計結果の特徴について分析を行い、第四章では、第三章で紹介した諸国・自治区マクロモデルをリンクする際に各国モデル間のインターフェースの役割を果たす貿易リンクモデルを紹介する。中国（中国本土と中国新疆）は、限界消費性向が低く、投資性向が高いのに対して、旧ソ連諸国は逆である。限界消費性向と投資性向による乗数を見ると、タジキスタンを除くと、旧ソ連諸国は中国（中国新疆と中国本土）より小さく、中国よりも輸出主導型の成長パターンを表す。諸国・自治区輸出に対する輸出相手国 GDP 及び両国間相対価格の弾力性分析より、以下のことが分かった。a、中国による輸出増が輸入増のスピードを大きく上回っている。b、中国市場拡大のカザフスタンからの輸入に対する反応がロシアからの輸入に対する反応を上回っている。c、カザフスタンは、ロシア向け輸出を中国

へ転換している。d, 中国新疆の中国本土への移出増は移入増を上回っている。中国製品に対して旧ソ連諸国市場は補完的であり、中国市場は旧ソ連製品に対して選択的である。

第五章においては、以上のようにして作成されたモデルを使った2010年までの中短期予測結果を示し、諸国・自治区による財政政策、中国中央政府による新疆自治区への西部大開発政策及び上海シックス諸国への援助政策、ロシアによる中央アジア諸国への援助政策と中国中央政府によるそれとの比較、人民元切り上げの効果など現段階で可能ないくつかの政策シミュレーション分析を行う。中短期予測結果を見ると、カザフスタンと中国新疆は10%程度の、中国本土は8%~9%の高成長が、他の旧ソ連諸国は3%~5%の成長が見込まれる。諸国・自治区による財政政策の効果を見ると、a, 中国本土による財政政策の他国・自治区への波及効果が最も大きい。b, 他国による財政政策はカザフスタンと中国新疆への波及効果が比較的大きい。c, 国内波及効果はタジキスタンを除くと、投資を媒介するものが大きい。中国中央政府による西部大開発を含む諸国・自治区への援助政策の効果を見ると、ロシア、カザフスタン及び中国新疆などある程度産業が発展した地域に援助することは、あまり産業が発展していないキルギスタン、ウズベキスタンなどの地域に援助するよりも経済的に意味を持つ。ウズベキスタンへの援助政策を除くと、どこの国への援助政策も中国新疆へプラスの効果をもたらす。こうして中国政府による上海シックス諸国及び中国新疆への援助政策は、上海シックスの枠組み全体へ援助することになる。ロシアによる援助政策は、どの援助政策の場合も、援助国であるロシア自身には大きくマイナス効果を与えている。中国本土への効果は、中国による援助政策の場合の中国自身への効果よりも大きくプラスの効果をもたらす。中国新疆にとっては、カザフスタンとキルギスタンへの援助政策は中国本土による援助政策よりも中国新疆へ大きくプラスの効果をもたらす。

論文審査の結果の要旨

本論文は、上海協力機構（SCO）加盟六カ国と中国新疆自治区を対象とする国際リンクモデルを構築し、それによってこの地域の国際関係を分析しようとする大変意欲的なものである。従来、国際連結モデル自体は数多く存在していたものの、中国を含む国際連結モデルはそれほど多くなく、また本研究が構成したような上海協力機構（SCO）諸国と中国とをリンクする形での国際連結モデルはまったく存在しないという状況であった。しかし、上海協力機構が経済同盟としての性格も加味されるようになり、これら諸国間での経済関係が急速に深まるにつれて、これら諸国間の関係を数量的に研究する必要性も高まってきている。この社会的歴史的課題に正面から向かい合った、極めて開拓的かつ社会貢献性の高い論文として書かれている。これは本モデルが上海協力機構の本部所在地北京の中国社会科学院の中央アジア問題の研究者に高く評価されていることから伺える。

この論文が高く評価される理由をもう少し具体的に述べれば次のようになる。すなわち、第一に、この地域を対象とした初めての国際連結モデルであるに止まらず、これら六カ国を結ぶ要の位置にある中国新疆自治区を「独立」した地区として扱い、よってその地域の特徴と役割を鮮明にすることができていることにある。本論文執筆者は中国新疆自治区出身のウイグル族として、この役割が社会的に非常に重要であると認識している。あるいは、そうであることを論文としても明確に主張しているが、それを「モデル」と「シミュレーション」という次元でも表現しえていることが重要である。

また第二に、これらのモデルを構築するための詳細で完全なデータセットを数百の変数について整備しえたことである。内生変数だけでも188個を数えるこのデータセットは、上記のように中国新疆自治区の諸変数、とりわけ本自治区と中国本土や他の上海協力機構加盟諸国との貿易に関する諸変数を整備したという点で、それだけでも画期的な意味を持つ。その多くは特殊なデータを中国新疆自治区政府や中国中央政府の特定部署にあることを調べ上げ、そこでの交渉と代金の支払いによって入手している。また、それら以外の多くの欠損値はそれぞれの方法によって埋める作業をした結果としてのデータセットの整備であり、これ自体が大きな研究成果と理解される。

さらに第三に、こうしたデータセットを使った本モデルのシミュレーションによって多くのファクト・ファインディングを得ていることである。たとえば、グローバルな国際関係の中での中国の求心力がいかに拡大しているか、中国の影響力が上海協力機構を通じて西の方へ拡大していること、中国と中央アジア諸国の間において中継ぎ貿易の役割を果たしている中国新疆自治区の中国・中央アジア諸国間国際関係における位置の明確化である。より具体的には、本論文の要約のところでそれらの諸結果を列記している。

以上が評価される点であるが、以下のような問題点も指摘された。

第一に、貿易リンクモデルには、①輸出関数を基本とするか輸入関数を基本とするか、②各国通貨単位で推計するかドルベースで推計するか、③②の方式に依存して各国通貨単位とドル単位の定義的一致を獲得するために価格の決定をどのように行なうかについての選択がまず最初に存在する。その選択をどのようなフィロソフィーによって行ったのか、本モデルが対象とする地域や目的にとってその選択が最適であったことなどの詳しい説明がほしかったことである。

また第二に、国際連結モデルである限り、諸国マクロモデルよりも、貿易に関する諸方程式の推計結果についてもっと詳しい分析がされるべきであったことである。

さらに第三に、第五章において様々なシミュレーション分析が行われているが、シミュレーション結果の特徴はあくまでも第三章及び第四章で推計されたそれぞれの係数に依存しているのであるから、それらとシミュレーション結果との関係についてより深く分析して欲しかったということである。

ただし、本論文には以上のような問題点もあるが、本論文が目的とした上海協力機構諸国間の関係の分析、そしてその中の中国新疆自治区の位置の明確化という全体的な学術的価値は十分果たされており、またその開拓的研究であるという意義は決して損なわれない。よって本論文は、博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、2006年5月10日、論文内容とそれに関連する試問を行った結果、合格と認めた。